

事務所長からのメッセージ

- 9月10日に発表しました道北景気の基調的な判断は、ほぼ前月と同様であります。前月までの「緩やかな持ち直しの動きが続いている」に「極めて」という文言を加えました。「緩やかな持ち直しの動き」がさらに緩慢になってきているのではないかの判断からです。
- 7月の道北の経済指標をみますと、農業、公共工事、建築確認申請床面積などは、決して悪くありません。札幌支店で捉えている設備投資額も道内全般では増加していません。また、消費も今回の指標には反映されていませんが、8月の猛暑で幾ばくか好影響はあるでしょう。
- ただ、国、道、市町村ともに、予算規模が縮小していますから、年度でみた公共投資は減少傾向にあると判断してよいでしょう。住宅投資面では、建築基準法改正に伴い、当面は弱めに推移するとみておくべきでしょう。また、個人消費も、月による振れはありますが、均してみれば横ばい圏内と捉えておくべきでしょう。
- この間、道北景気の牽引役であった、製造業の道外向け出荷の状況、空港利用客数に象徴される観光産業の活況に、一部ではありますが、やや一服感がみられるような気がしています。
- 国全体の景気が緩やかに拡大を続けている中で、道内全体の景気はここへきて横ばい圏内の動きとなっています。こうした中、道北の景気も、これまでと同じペースで持ち直しの動きが続くかどうかを焦点だと思っています。

平成 19 年 9 月 10 日